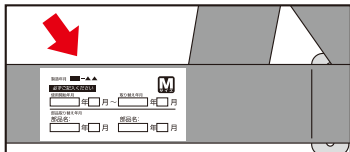


- 物品の下積みなどにより傷や変形が起こらないようにしてください。
- ベルト・ランヤード・パッドに泥・埃・油・塗料が付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってください。
- フック・バックルなどの金具は付着した砂・土・水などを拭き取り、可動部に時々注油してください。
- 高温（50℃以上）となる場所に長時間保管しないでください。

9. 交換の目安（耐用期間）

使い方によって異なりますが、交換の目安としては、ランヤード部は使用開始年月より2年、フルハーネス本体・ベルト部は3年くらいを目途としてください。ただし、耐用期間内であっても「7.点検と廃棄の基準」にしたがって点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取替えてください。

- 使用を開始した年月を腿ベルト裏面に縫い付けてあるラベルに必ず記入してください（右図参照）。
- ランヤード部などを取替えた時は、その年月をラベルに記入してください。



10. 性能

項目		「墜落制止用具の規格」
肩・背中・腰・腿・胴ベルト		15.0kN以上
フック・環類		11.5kN以上
フック外れ止め装置		1.0kNの力を加えた時、隙間にφ3mmのピンゲージが通らないこと。
巻取器		11.5kN以上
肩/腿ベルト用バックル連結部		6.0kN以上
胴ベルト用バックル連結部		8.0kN以上
ストラップ・平ロープ・緩衝・ショックアブソーバ		15.0kN以上
ショックアブソーバの衝撃吸収性		重さ100kgもしくは130kgの重錘またはトルソーを自由落下距離で落下させた場合に、衝撃値が4.0kN以下であること、またショックアブソーバの伸びが1.2m以下であること。
フルハーネス本体	引張強度	順方向引張強度15.0kN以上
		逆方向引張強度10.0kN以上
	落下強度	脚部および頭部から先に落下させた時に、トルソーを保持すること。落下後のランヤードとトルソーのなす角度は45°以下。ベルトの著しい裂け、縫製部の破断、金具の破損なきこと。

製品に関するお問い合わせは

✉ <https://jpn.tajimatool.co.jp/inquiry>

TEL 0120-125577



受付時間：
月曜日～金曜日
9:00～17:00
(12:00～13:00
祝日・当社指定休日を除く)

株式会社TJMデザイン

本社/〒174-8503 東京都板橋区小豆沢3-4-3

<https://jpn.tajimatool.co.jp>

保管用 第6版 55878
ZA/ZS/GS

ご使用前に必ずお読みください。

Tajima

「墜落制止用具の規格」適合品

取扱説明書

フルハーネス型 タイプ1

このたびは、《墜落制止用具フルハーネス型 タイプ1》をお買い上げいただきありがとうございます。本製品は、建設工事現場・工場等の高所作業に用いる墜落制止用具です。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、ご使用ください。

▲危険 ▲警告 ▲注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。この取扱説明書は、いつでも活用できるよう大切に保管してください。

取扱説明書を紛失された場合は、弊社HPにも掲載しておりますので、プリントアウトして保管してください。

HPアドレス：<https://jpn.tajimatool.co.jp>

(HP トップページにある「取扱説明書」のボタンをクリックしてください)

この墜落制止用具はフルハーネス型 タイプ1(1本つり)用です。

●目次

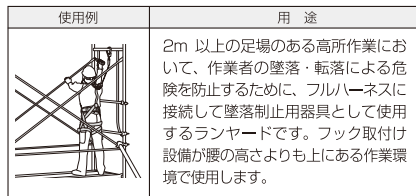
1.用途	2～3	5.フルハーネス型ランヤードの取付け方法	15
2.フルハーネス本体の構造および各部名称	4～5	5-1 フルハーネス型ダブルランヤードの固定方法	15
3.装着方法	6	5-2 フックの操作方法	15
3-1 装着方法	6～8	5-3 フックの使用法	16
3-2 バックルの使用法	8	5-4 フックハンガーの使い方	16
3-3 ベルトの長さ調節	9～10	6.必ずお守りください	
3-4 AR環の使用法 (ZAのみ)	10	(使用上の注意事項)	16～20
3-5 SEGフルハーネスとSEG胴当て		7.点検と廃棄の基準	21～23
ベルトの取付け方法	11	8.保管と手入れのしかた	23～24
3-6 胴ベルトの取付け方法	11	9.交換の目安(耐用期間)	24
4.フルハーネス型ランヤードの構造		10.性能	24
および各部名称	12～13		
ストラップ長さの調節方法	14		

1. 用 途

このランヤードはフルハーネス型
タイプ 1※1(1本つり※2) 用です。
その使用例および用途は次の
とおりです。

※1 タイプ1
自由落下距離で墜落を制止する時の衝撃荷重が
4.0kN 以下になる。第1種ショックアブソーバを
備えたランヤードとなります。

※2 1本つり
図のようにランヤード先端のフックを構造物に掛けて、構造物から人体までがランヤード1本でつながっている状態をいいます。



●体重（使用可能質量）* の制限について

製品ラベルに表記されている使用可能質量以下でご使用ください。
使用可能質量を超えると墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、墜落制止用器具が
破断して重大な事故が起こるおそれがありますので使用しないでください。
※使用可能質量：体重と装着する全ての物の合計質量

●使用高さの制限について

- 【想定条件】
- ・D環の高さ：1.45m
 - ・フック取付け高さ：0.85m

- a：フック取付け高さ
b：D環の高さ
c：ランヤード長さ
d：ショックアブソーバ、
フルハーネス、
ランヤードの伸び合計

A：最大自由落下距離（ランヤードが緊張し、
ショックアブソーバが作動する落下距離）

$$A = c + (b - a)$$

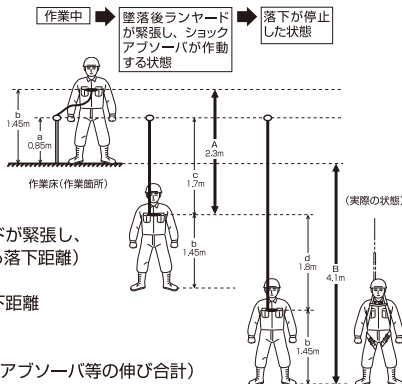
B：作業床（作業箇所）からの落下距離

$$B = c + d + (b - a)$$

$$= A + d$$

（最大自由落下距離+ショックアブソーバ等の伸び合計）

b-a：追加落下距離



使用可能 質量	記号						
	a	b	c	d	A	B	b-a
100kg 以下	0.85m	1.45m	1.7m	1.8m	2.3m	4.1m	0.6m
130kg 以下	0.85m	1.45m	1.7m	2.2m	2.3m	4.5m	0.6m

種類：フルハーネス型 種別：第一種(4kN)

製品ラベルの性能表記をご確認の上
その規定内にてご使用ください。

「墜落制止用器具の規格」適合品 株式会社J.M.デザイン			
フルハーネス型 第一種(4kN)	種別	100kg 使用可能質量	10000000
2.3m 最大自由落下距離	4.1m 落下距離	有 ロック機構	フックに表示 製造年月

- 最大自由落下距離 このショックアブソーバの性能を確認している試験落下高さです。
実使用上は、フックを掛ける高さによって落下距離が変動します。
- 落下距離 製品ラベルに表記されている体重（使用可能質量）の方が、高さ
0.85mの親綱および単管にフックを掛けた状態で墜落した場合の
作業床からの落下距離です。
- 使用可能質量 体重と装着する全ての物の合計質量です。

使用可能質量 100kg 以下

このランヤードは左図の通り、作業床から地面までの距離が4.1m以上の環境での使用を想定しております。

作業床から地面までの距離が4.1m以下の場所でご使用になる場合は、フックを
0.85mより高い位置に掛け替えてご使用ください。

▼安全にご使用いただくために必要となる作業床～地面までの距離

	親綱および単管にフックを掛ける高さ					
	0.85m	1.0m	1.15m	1.3m	1.45m	1.6m
必要となる距離 （作業床～地面）	4.1m 以上	3.95m 以上	3.8m 以上	3.65m 以上	3.5m 以上	3.35m 以上
作業床からの落下距離	4.1m ラベル表記	3.95m	3.8m	3.65m	3.5m	3.35m
最大自由落下距離	2.3m ラベル表記	2.15m	2.0m	1.85m	1.7m	1.55m

使用可能質量 130kg 以下

このランヤードは左図の通り、作業床から地面までの距離が4.5m以上の環境での使用を想定しております。

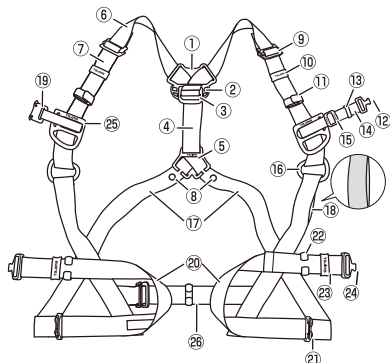
作業床から地面までの距離が4.5m以下の場所でご使用になる場合は、フックを
0.85mより高い位置に掛け替えてご使用ください。

▼安全にご使用いただくために必要となる作業床～地面までの距離

	親綱および単管にフックを掛ける高さ					
	0.85m	1.0m	1.15m	1.3m	1.45m	1.6m
必要となる距離 （作業床～地面）	4.5m 以上	4.35m 以上	4.2m 以上	4.05m 以上	3.9m 以上	3.75m 以上
作業床からの落下距離	4.5m ラベル表記	4.35m	4.2m	4.05m	3.9m	3.75m
最大自由落下距離	2.3m ラベル表記	2.15m	2.0m	1.85m	1.7m	1.55m

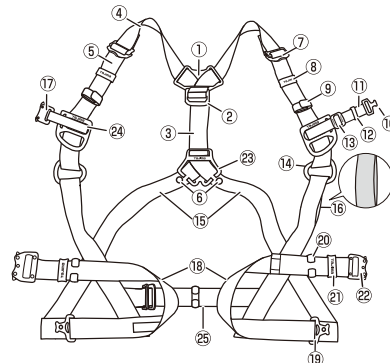
2.フルハーネス本体の構造および各部名称

ZAタイプ



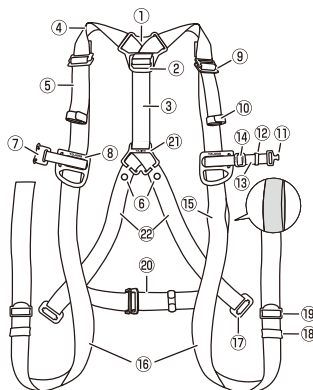
- ①バックパッド
- ②AR環
- ③D環
- ④背中ベルト
- ⑤腰パッド
- ⑥肩ベルトA
- ⑦肩ベルトB
- ⑧固定用ボタンホック
- ⑨肩バックル
- ⑩ゴムベルトストッパー (大)
- ⑪ロックバンド
- ⑫胸バックル (凸側)
- ⑬ゴムベルトストッパー (小)
- ⑭胸ベルト
- ⑮胸ベルト調節バックル
- ⑯アクティブリング
- ⑰腰ベルト
- ⑱固定用ループ
- ⑲胸バックル (凹側)
- ⑳腿ベルト
- ㉑腿バックル (凹側)
- ㉒ベルトキーパー
- ㉓ゴムベルトストッパー (大)
- ㉔腿バックル (凸側)
- ㉕フックハンガー
- ㉖骨盤ベルト

ZSタイプ



- ①バックパッド
- ②D環
- ③背中ベルト
- ④肩ベルトA
- ⑤肩ベルトB
- ⑥固定用ボタンホック
- ⑦肩バックル
- ⑧ゴムベルトストッパー (大)
- ⑨ロックバンド
- ⑩胸バックル (凸側)
- ⑪胸ベルト
- ⑫ゴムベルトストッパー (小)
- ⑬胸ベルト調節バックル
- ⑭アクティブリング
- ⑮腰ベルト
- ⑯固定用ループ
- ⑰胸バックル (凹側)
- ⑱腿ベルト
- ㉑腿バックル (凸側)
- ㉒ベルトキーパー
- ㉓ゴムベルトストッパー (大)
- ㉔腿バックル (凹側)
- ㉕腰パッド
- ㉖フックハンガー
- ㉗骨盤ベルト

GSタイプ



- ①バックパッド
- ②D環
- ③背中ベルト
- ④肩ベルトA
- ⑤肩ベルトB
- ⑥固定用ボタンホック
- ⑦胸バックル (凹側)
- ⑧フックハンガー
- ⑨肩バックル
- ⑩ロックバンド
- ⑪胸バックル (凸側)
- ⑫ゴムベルトストッパー (小)
- ⑬胸ベルト
- ⑭胸ベルト調節バックル
- ⑮固定用ループ
- ⑯腿ベルト
- ⑰腿バックル (凹側)
- ⑱ベルトキーパー
- ⑲腿バックル (凸側)
- ㉑骨盤ベルト
- ㉒腰パッド
- ㉓腰ベルト

3. 装着方法

装着方法・胸ベルトの取り付け方法を動画でもご覧いただけます▶



ご注意

SEG フルハーネスは胸ベルトには直接取付けることはできません。11ページをご確認の上、タジマの**SEG** 胸当てベルトと胸ベルトを組合わせてご使用ください。

SEG フルハーネス

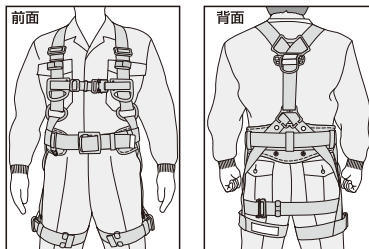
+

SEG 胸当てベルト

+

胸ベルト

〈装着例〉※イラストはZAシリーズです。



対応表

フルハーネス

胸ベルト フルハーネス	フルハーネス		
	S	M	L
	GAXW600・ACRX600・USFX600・USCX600	○	※2
	GAXW700・CRX700・ACRX700・USFX700・USCX700・CKRX700	○	○
	SFCRX800・GAXW800・CRX800・ACRX800・USFX800・USCX800・CKRX800	○	○
	SFCRX900・CRX900・CKRX900	※1	○

※1.フルハーネスの固定用ループに胸ベルトを通し固定（引掛けガイド内側）

※2.フルハーネスの固定用ループに胸ベルトを通し固定（引掛けガイド外側）
フルハーネスと胸当てベルトの組合わせは同サイズのものをおすすめします

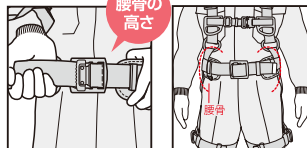
3-1.装着方法

※イラストはZAシリーズです。ZS、GSシリーズも同じ装着方法です。

①フルハーネスの胸バックル、腿バックル、胸ベルトのバックルを外した後、リュックを背負うように肩ベルトに腕を通す。この時肩ベルトがよじれている場合は直してください。

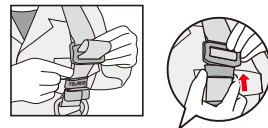


②胸ベルトを腰骨の高さに合わせ、体にフィットするように長さを調節し装着する。

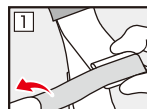


③肩バックルを使い、肩ベルトの長さを調節し、体にフィットさせる。（調節目安：肩ベルトA/B、背中ベルトが適度に張った状態）

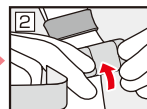
肩ベルトの長さ調節は9ページをご覧ください。



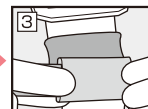
④肩ベルトが緩まないようゴムベルトストッパー（大）を肩バックル下に移動させる。（ZA/ZSのみ）調節後余った肩ベルトは下の図の手順でまとめ固定する。



肩ベルトBの先端のロックバンドの軸にはがす。



はがしたロックバンドを軸に余った肩ベルトを巻く。

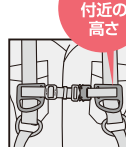


ゴムベルトストッパー（大）の下まで巻き取り、その状態でロックバンドを使ってベルトを固定する。

※ロックバンドの黒面が上になるようにベルトに巻付け固定する。



⑤フックハンガーを上下にスライドさせ、胸ベルトが胸の中心付近の高さになるように調節する。



胸の中心
付近の
高さ

⑥胸ベルトの胸バックル（凸側）を胸バックル（凹側）に差し込み固定。その後、胸ベルトの長さを調節する。（調節目安：胸ベルトが適度に張った状態）



バックルの固定

胸ベルトの長さ調節は9ページをご覧ください。

⑦ZA/ZSシリーズの場合

腿ベルトの腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）に差し込み固定。その後に太腿にフィットするように腿ベルトの長さを調節する。余った腿ベルトはベルトキーパーに通し固定する。また腿ベルトが緩まないように、ゴムベルトストッパー（大）を腿バックル横に移動させる。（ZA/ZSのみ）



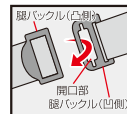
バックルの固定



ベルトキーパーで固定

⑦GSシリーズの場合

腿ベルトの腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）の開口部に通し固定。その後に太腿にフィットするように腿ベルトの長さを調節する。余った腿ベルトはベルトキーパーに通し固定する。



腿バックル（凸側）
開口部
腿バックル（凹側）



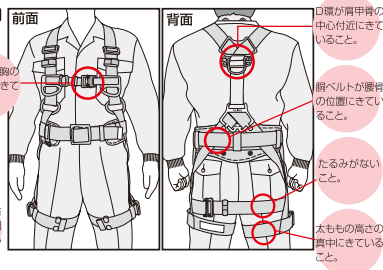
ベルトキーパーで固定

腿ベルトの長さ調節は10ページをご覧ください。

- ⑧ 骨盤ベルトにたるみが出ないように骨盤ベルトの長さを調節する。余った骨盤ベルトはベルトキーパーに通し固定する。

骨盤ベルトの長さ調節は10ページをご覧ください。

正しい装着例



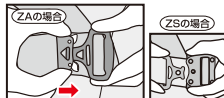
各ベルトにねじれがないこと。

各ベルトが左右均等にサイズ調節されていること。

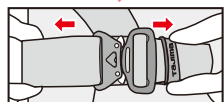
3-2.バックルの使用方法

ZA/ZSシリーズの腿バックル

連結する時

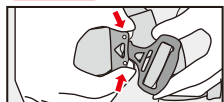


- ① 片方の腿バックル（凹側または凸側）を持ち、反対側の腿バックル（凹側または凸側）の奥に当たるまで差し込みます。



- ② 両側のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらに腿ベルトを左右に引張り、バックルがロックされていることを確認してください。

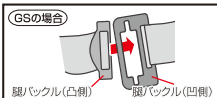
外す時



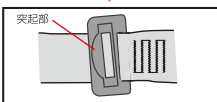
- 両側のロック解除レバーを同時に押すと腿バックルが外れます。

GSシリーズの腿バックル

連結する時

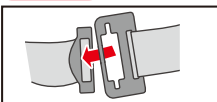


- ① 腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）の開口部に矢印の方向で通し固定します。



- ② 腿バックル（凸側）の突起部が縫製部の逆側にきていることを確認してください。

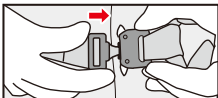
外す時



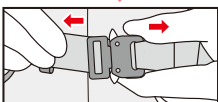
- 腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）の開口部に矢印の方向で通すと腿バックルが外れます。

全シリーズ共通胸バックル

連結する時

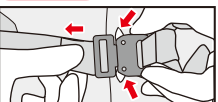


- ① 片方の手で胸バックル（凸側）を持ち、胸バックル（凹側）の奥に当たるまで差し込みます。



- ② 両側のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらに胸ベルトを左右に引張り、バックルがロックされていることを確認してください。

外す時



- 両側のロック解除レバーを同時に押すと胸バックルが外れます。

3-3.ベルトの長さ調節

※イラストはZAシリーズです。GS/ZSも同じ調節方法です。

肩ベルト

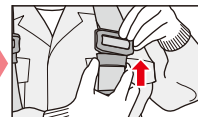
ベルトを短くする場合



- ① 下側の肩ベルトBを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。

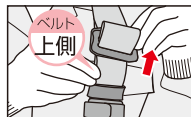


- ② 上側の肩ベルトBを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。

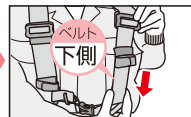


- ③ ゴムベルトストッパー（大）をバックルの下に移動する。（ZA/ZSのみ）

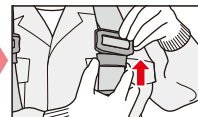
ベルトを長くする場合



- ① 上側の肩ベルトBを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。



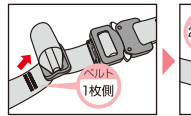
- ② 下側の肩ベルトBを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。



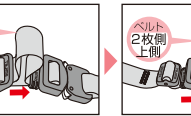
- ③ ゴムベルトストッパー（大）をバックルの下に移動する。（ZA/ZSのみ）

胸ベルト

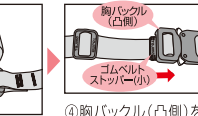
ベルトを短くする場合



- ① 1枚側ベルトを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。



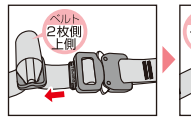
- ② 2枚側ベルトの上側を矢印の方向へ「たわみ」の分引張る。



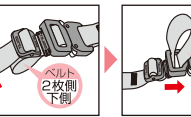
- ③ 2枚側ベルトの上側を矢印の方向へ「たわみ」の分引張る。

- ④ 胸バックル（凸側）を矢印の方向へ引張り、「たわみ」を無くす。最後にゴムベルトストッパー（小）を胸バックル（凸側）の隣に移動する。

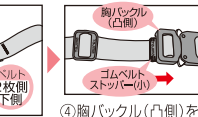
ベルトを長くする場合



- ① 2枚側ベルトの上側を矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。



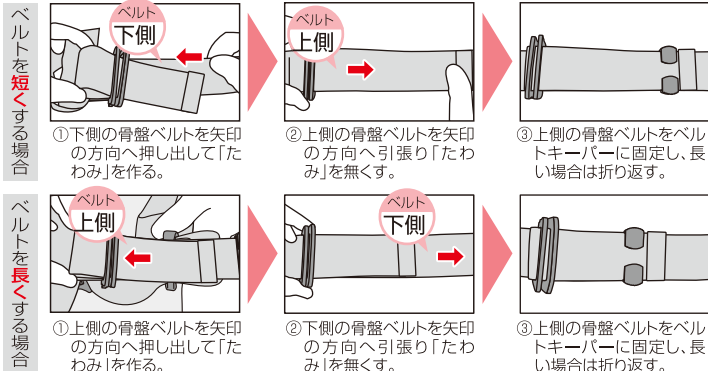
- ② 1枚側ベルトを矢印の方向へ「たわみ」の分引張る。すると2枚側ベルトの下側に「たわみ」ができる。



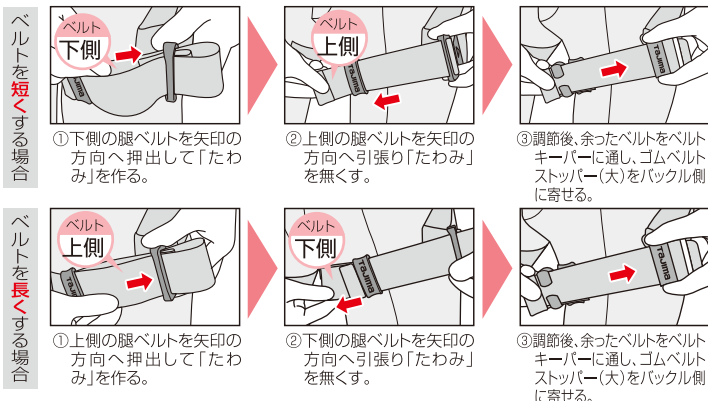
- ③ 2枚側ベルトの下側を矢印の方向へ「たわみ」の分引張る。

- ④ 胸バックル（凸側）を矢印の方向へ引張り、「たわみ」を無くす。最後にゴムベルトストッパー（小）を胸バックル（凸側）の隣に移動する。

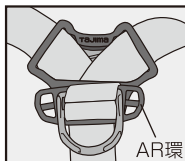
骨盤ベルト



腿ベルト



3-4.AR環の使用法 (ZAのみ)



AR環には安全ロープが取り付けられます。
●安全ロープ取り付け穴(1穴) 許容重量:1.0kg以下



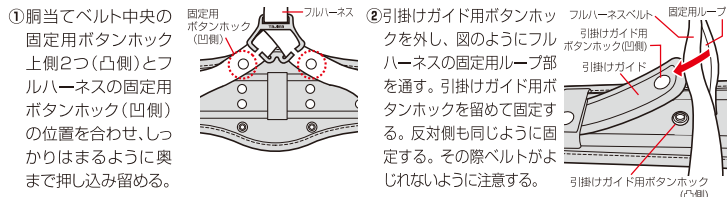
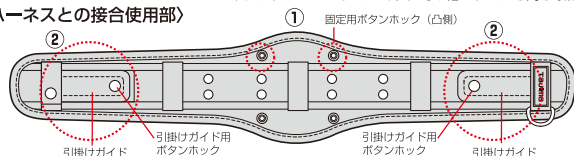
※設定荷重以上の安全ロープ(取付け工具を含む)は絶対に取付けしないでください。

3-5. SEGフルハーネスとSEG胴当てベルトの取付け方法

〈注意〉必ずフルハーネスと胴当てベルトを先に取付けてから胴ベルトを取付けてください。

※イラストはCRXシリーズです。その他シリーズも同じ取付け方法です。

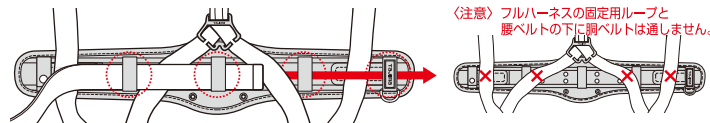
〈フルハーネスとの接合使用部〉



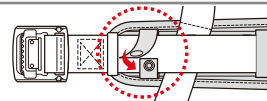
3-6. 胴ベルトの取付け方法

3-5の方法でフルハーネスと胴当てベルトを取付けた後、図のように胴ベルトを胴当てのベルトループに通す。この時、フルハーネスの腰ベルトは胴当てベルトの左右真ん中のベルトループの内側にくるようにする。

〔ベルトループ数〕GAXW600のベルトループは2箇所、その他の胴当てベルトは4箇所あります。



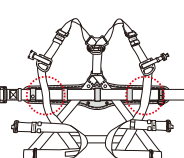
ボタン式ベルトループのボタンを外し、胴ベルトのバックルを通し、最後にボタンを留め固定する。



〈ご注意〉下記製品の組合わせの場合、胴当てベルトの「引掛けガイド」は使用せず、胴ベルトを下記位置でフルハーネスの固定用ループに通します。

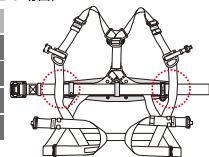
〈対応表※1の組合わせの場合〉

フルハーネス〈Sサイズ〉
SFCRX900
CRX900
CKRX900



〈対応表※2の組合わせの場合〉

フルハーネス〈Lサイズ〉
GAXW600
ACRX600
USFX600
USCX600



※固定用ループの位置にご注意ください。

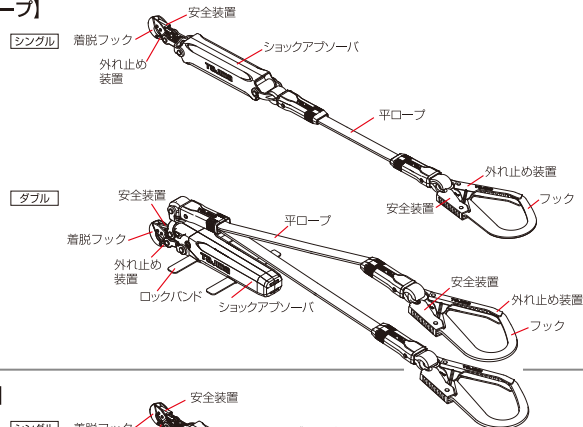
4. フルハーネス型ランヤードの構造および各部名称

使用するランヤードについて

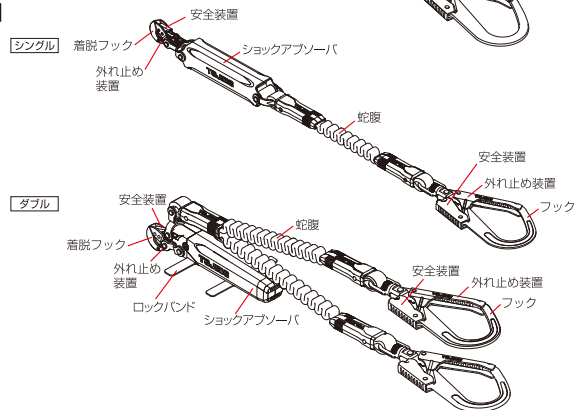
フルハーネスに使用するランヤードは、必ずフルハーネス型ランヤードまたはフルハーネス型・胴ベルト型兼用タイプをご使用ください。上記ランヤード以外を組合せた場合、墜落制止時の衝撃荷重が「墜落制止用器具の規格」に定められた4kNを超える場合があります。

またフルハーネスと組み合わせるフルハーネス型ランヤードは当社製品をご使用いただくことを推奨します。

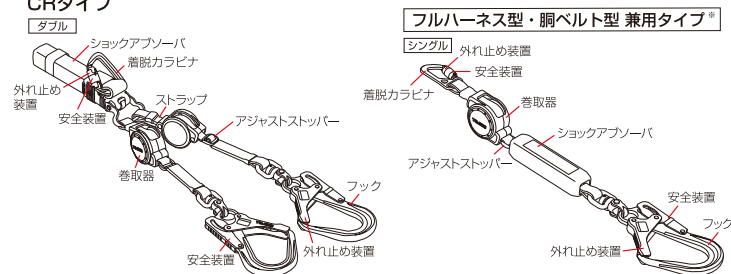
【平ロープ】



【蛇腹】

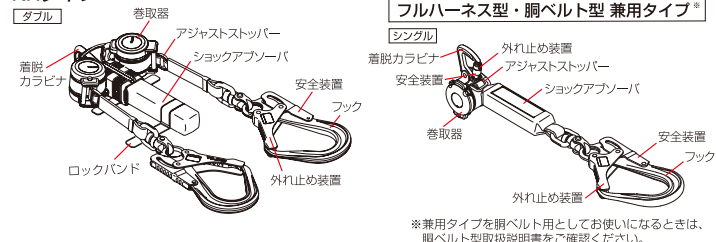


【巻取(ロック装置なし)】 CRタイプ



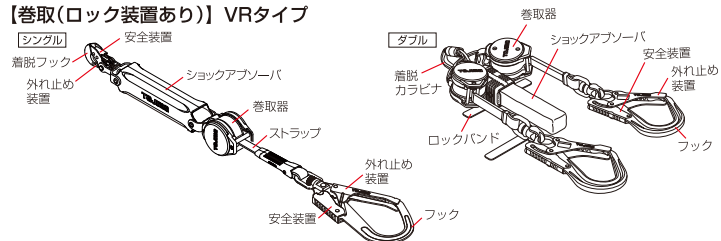
※兼用タイプを胴ベルト用としてお使いになるときは、胴ベルト型取扱説明書をご確認ください。

KRタイプ

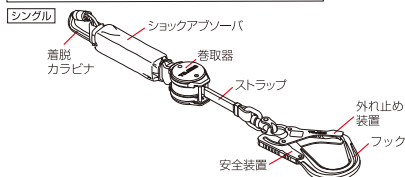


※兼用タイプを胴ベルト用としてお使いになるときは、胴ベルト型取扱説明書をご確認ください。

【巻取(ロック装置あり)】 VRタイプ



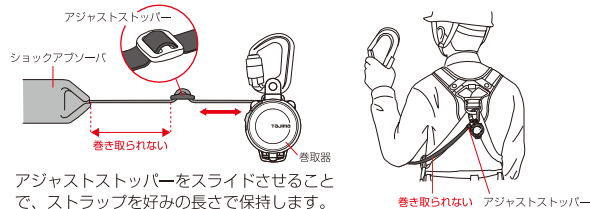
フルハーネス型・胴ベルト型 兼用タイプ*



※兼用タイプを胴ベルト用としてお使いになるときは、胴ベルト型取扱説明書をご確認ください。

ストラップ長さの調節方法

- **アジャストストッパー** KRタイプ・CRタイプ共通 ※イラストはKRタイプです。CRタイプも調節方法は同じです。
ストラップを常に決まった長さに固定したい時に便利な機能です。

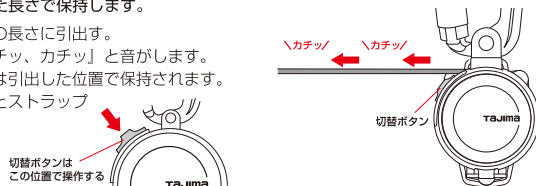


KRタイプの【シングル】では作業シーンに合わせて【オートストップ】と【フリー】の2つの巻取機構を選択できます。

● オートストップ

ストラップを引出した長さに保持します。

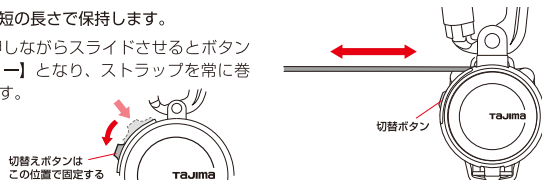
- ① ストラップを好みの長さに引出す。
引いている間『カチッ、カチッ』と音がします。
- ② ストラップの長さは引出した位置で保持されます。
- ③ 切替ボタンを押すとストラップを巻き取ります。



● フリー

ストラップを常に最短の長さに保持します。

切替ボタンを下に押しながらスライドさせるとボタンが固定されて【フリー】となり、ストラップを常に巻き取る状態になります。



※フルハーネス型ランヤードとしてご使用の場合は、【フリー】機構でご使用ください

動画はこちら▼

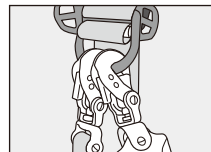
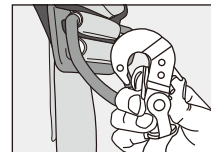
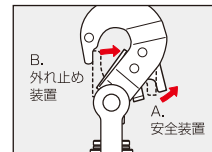


5. フルハーネス型ランヤードの取付け方法

フルハーネスのD環と直接ランヤードが付いている製品については、この取付け作業は必要ありません。

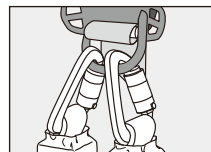
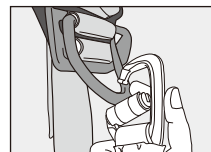
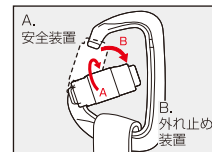
着脱フック

- ① A.安全装置を上げ、B.外れ止め装置を押して着脱フックを開口する。
- ② 外れ止め装置を押しながらフルハーネスのD環に取付ける。
- ③ シングルランヤードを2本取付ける場合は図のように取付ける。



着脱カラビナ

- ① A.安全装置を押しロックを解除し、B.外れ止め装置を押して着脱カラビナを開口する。
- ② 外れ止め装置を押しながらフルハーネスのD環に取付ける。
- ③ シングルランヤードを2本取付ける場合は図のように取付ける。

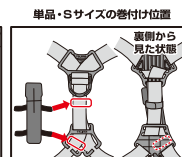
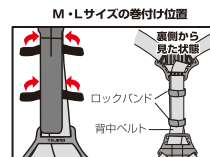
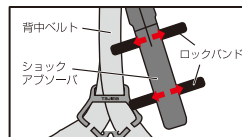


危険 外れ止め装置がしっかりロックされているか、ご確認の上ご使用ください。

5-1. フルハーネス型ダブルランヤードの固定方法

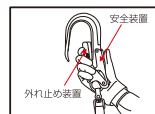
- ① 上記方法でフルハーネスにフルハーネス型ダブルランヤードを取付け後、ショックアブソーバの裏側のロックバンド2カ所をはがす。
- ② はがしたロックバンドをフルハーネスの背中ベルトに巻付け、ショックアブソーバを固定する。

※単品・Sサイズはロックバンドの巻付け位置が異なります。



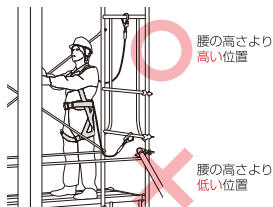
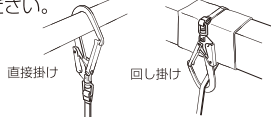
5-2. フックの操作方法

フックは外れ止め装置と安全装置を同時に握ってください。開口します。



5-3.フックの使用法

フックは腰の高さより高い位置の堅固な構造物等に直接掛けをするか、あるいはランヤードを利用して回し掛けをしてください。



5-4.フックハンガーの使い方

フックハンガーはフック休止専用部品です。

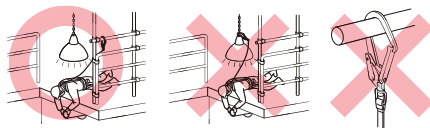


6.必ずお守りください（使用上の注意事項）

危険 誤った使い方をしますと、墜落などの危険性がありますので、絶対にやめてください。

●ランヤードは堅固な構造物に取付けてください。

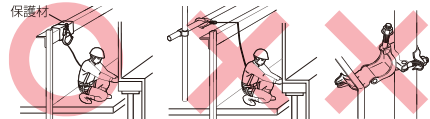
ランヤードは、構造物から抜けたり、破損したりするおそれがなく、墜落制止時の衝撃荷重に十分耐えるものを選んで取付けてください。電線線等弱い構造物に取付けると、墜落制止時の衝撃荷重で破損し、墜落する危険性があります。



●ランヤードが鋭い角に触れないようにしてください。

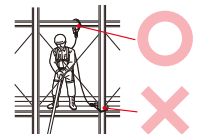
ランヤードが墜落時に鋭い角に触れるおそれのある所では使用しないでください。

墜落制止時に鋭い角でランヤードが切断することがあり危険です。したがって、鋭い角のある構造物を避けてランヤードを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いてご使用ください。



●フックは腰の高さより高い位置に取付けてください。

フックは必ず腰の高さより高い位置に取付けてください。低い位置に取付けた場合、落下距離が長くなり床面または下方の障害物に接触する危険性があります。また衝撃荷重が大きくなり身体に損傷を及ぼすおそれがあるばかりか、ランヤードが切断する危険性があります。絶対にしないでください。



●ランヤードをフルハーネスのD環に取付ける際は、フルハーネス装着前に取付けてください。装着後に取付ける場合は別の人に確実に取付けてもらってください。

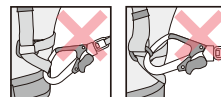
●本製品を墜落制止目的でご使用になる場合、必ずフルハーネス型ランヤードをご使用ください。絶対に胴ベルト型ランヤード、ワークポジショニング用ロープ（U字つり）、補助ロープ（移動用）は使用しないでください。

●フックハンガーをD環等、強度のある器具の代わりとして使用しないでください。

フックハンガーは使用していないランヤードのフックを吊り下げるためのものです。フックハンガーをD環等強度のある金具の代わりとして使用した場合、墜落制止時にフックハンガーが外れたり、壊れて重大事故につながる危険性がありますので、絶対にしないでください。



●アクティブリングやフルハーネスベルトにフックは絶対に取付けしないでください。



●改造や部品の取外し等の加工は絶対に行わないでください。

●組合わせて使用される製品の取扱説明書もあわせてご覧いただき、正しくお使いください。

●フックは正しく掛けてください。

誤った掛け方をすると、フック本体が変形または破断して墜落する危険性があります。フックは墜落制止時に折れ曲がったり、外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないようにフックの主軸の方向と、墜落制止にかかる力の方向が一致するように掛けてご使用ください。回し掛けは鋭角部を避け、フックに横方向の曲げ荷重が加わらないように、また縫製部保護カバーが屈曲しないように掛けてください。フックが正しく掛かっているか（外れ止め装置が閉じているか、安全装置が構造物との接触で押されていないか等）目視で確認し、あわせて引張って外れないか、確実に連結されているか確認の上でご使用ください。

	直接掛け	回し掛け	穴掛け（ボルト穴など）
正しい掛け方			
誤った掛け方			

危険 誤った掛け方をすると、外れ止め装置や安全装置がねじれられたり部材が押されたりしてフックが取付け部から外れたり、フック本体が変形して墜落するおそれがあります。

●着脱カラビナをフルハーネスのD環に正しく掛けてください。

外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないように着脱カラビナの主軸の方向と、墜落制止時にかかる力の方向が一致するように掛けてご使用ください。
着脱カラビナが正しく掛かっているか（外れ止め装置が閉じているか、安全装置が構造物との接触で押されていないか等）目視で確認し、あわせて引張って外れないか、確実に連結されているかご確認の上ご使用ください。



誤った掛け方をすると、外れ止め装置や安全装置がねじれたり部材が押されたりして着脱カラビナがフルハーネスのD環から外れたり、着脱カラビナ本体が変形して墜落するおそれがあります。

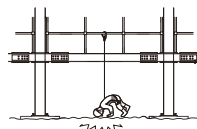
●どちらか一方のランヤードが構造物と連結しているようにしてください。
(ランヤード2本をご使用の場合)

どちらか一方のランヤードを掛ける前にもう一方のランヤードを外すと、構造物との接続がなくなり、墜落する危険性があります。

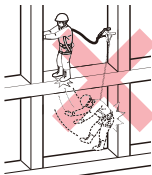
警告 誤った使い方をしますと、墜落などのおそれがありますので、やめてください。

●墜落制止用器具は墜落災害の防止用ですので他の用途には使用しないでください。

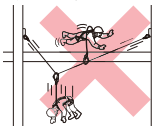
●ランヤードは墜落制止時に床面または下方の障害物に接触しない位置に取付けてください。



●ランヤードは振り子状態にならないように位置に取付けてください。

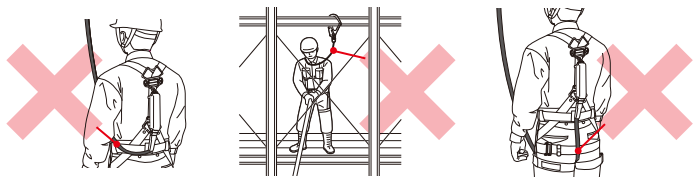


●親綱(垂直・水平)の1スパンを利用する作業者は1名としてください。



友引き状態になり、他の作業者も同時に墜落するおそれがあります。

●ランヤードが首の前にある状態や脇、股に挟み込んだままで作業をしないでください。



●一度でも大きな荷重が加わったものは廃棄してください。

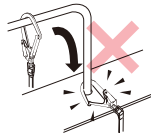
右図のように環類が変形・破損していれば、大きな外力が加わった可能性があります。墜落制止用器具全体を廃棄してください。



外見上の変形がなくても、一度でも大きな荷重が加わったものは設定減衰力が低くなり、再び墜落すると衝撃荷重が人体へ大きく加わって、安全限界を超えて人体が損傷するおそれがあります。

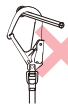
●フックが滑り落ちるような場所にフックを掛けしないでください。

支柱に滑り止めとなる横棒のない枠組み足場の手すりや斜めの構造物など、フックが取付け位置から滑る場所にはフックを掛けしないでください。



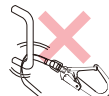
●フックをステップボルトに掛けしないでください。

墜落制止時にフックが曲がったり、抜けたり、ステップボルトが折損したり、重大事故になる危険性がありますので、絶対にしないでください。



●屈曲としごき加わる使用はしないでください。

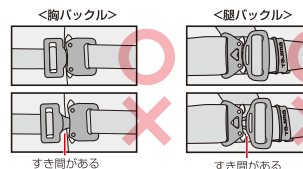
縫製部、縫製部際に過度の屈曲としごきが繰り返されると、縫製部を保護するカバーが破損し、縫製部の強度低下につながるため絶対にしないでください。



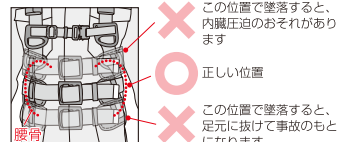
●2丁掛け仕様の場合、掛け替え時以外の通常使用時は、両方のフックを掛けた状態で作業しないでください。

墜落制止時にショックアブソーバが正常に機能しない場合があります。

●フルハーネスのバックルが確実にロックされていることを確認してください。

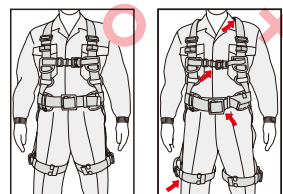


●胴ベルトは腰骨の位置で身体にフィットするようにしっかり締めてください。



●必ずベルトの長さを体にフィットするように調節してご使用ください。

ベルトを緩めた状態で装着していると、墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、体が損傷したり、フルハーネスが体から抜けて重大な事故につながる可能性があります。また作業時に突起物などに緩んだベルトが引っかかり転倒するおそれがあります。



- 溶接の火花、強い酸やアルカリ、油、その他高温高熱の物体や化学薬品類が製品に付着しないようにしてください。

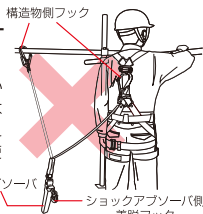
-  雨の日は感電に注意してください。

- 墜落制止用器具は-10℃～50℃の範囲で使ってください。

ベルト・ランヤード・ショックアブソーバが火気または高温部に触れないようにしてください。
なお、使用温度が-10℃～50℃以内であっても、水に濡れて凍結すると、フックの外れ止め装置と安全装置、バックルのスライド部、巻取器のロック装置が作動しないおそれがあります。
操作する上で異常がないか確認しながらお使いください。

- ショックアブソーバ側の着脱フックおよび着脱カラビナをフルハーネスの背中D環に取付けてご使用ください。

誤った取付け方法でご使用された場合、落下距離が長くなるばかりか墜落制止時にショックアブソーバが全く機能せず衝撃荷重が大きくなり、身体に損傷を及ぼす危険性があります。また十分な強度が得られず墜落制止できないおそれがありますので、正しい取付け方法でご使用ください。



注意 安全にお使いいただくためにお守りください。

- 墜落制止用器具に体重を掛けて作業をしないでください。

万一の墜落制止を目的に使用する製品です。

- 丁寧に扱ってください。

ランヤードを引きずりますとフックに砂などの異物が付着したり、ランヤードが摩耗したりします。使用しない時、ストラップ巻取式タイプについてはストラップを巻取器に収納してください。

- 巻取器には急移動でロックがかかる製品がありますので注意してください。

- フルハーネス、フルハーネス型ランヤード、胴当てベルト、胴ベルトを組み合わせでご使用になる場合は、当社製品を組合わせていただくことを推奨します。

- フルハーネスと胴当てベルトは同じサイズのものを組合わせていただくことを推奨します。

- 墜落制止時に身体に傷をつける場合がありますので、工具類は腰袋に入れてください。

- 墜落制止用器具は屋外に放置しないでください。

ベルト・ランヤードは合成繊維製のため紫外線によっても強度が低下します。

- 胴当てベルト、胴ベルトをご使用にならず、フルハーネスのみで装着の場合はご自身の体型サイズよりもワンサイズ小さいフルハーネスをご使用されることを推奨します。

7. 点検と廃棄の基準

- 一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。

墜落制止用器具および関連器具は消耗品であり、使用しているうちに摩耗などにより性能が低下します。従って点検において1項目でも廃棄基準に達しているものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取替えてください。

始業点検：使用する人が作業前（装着時）に毎回行ってください。

点検後地上で墜落制止用器具を装着し、異常のないことを確認してください。

定期点検：使用する人もしくは管理者により1カ月ごとに行ってください。

異常時点検：作業中墜落制止用器具に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

- 墜落制止用器具点検チェックリスト 日常の点検を励行してください。

○：異常なし

×：異常あり

年 月 日

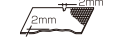
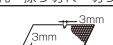
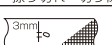
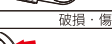
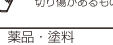
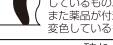
点検項目		廃棄基準	判定
フルハーネス	両耳	摩耗・擦り切れ	2mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの
		切り傷	2mm以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	2mm以上の焼損・溶融しているもの
	幅の中	摩耗・擦り切れ	2mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの
		切り傷	2mm以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	2mm以上の焼損・溶融しているもの
	全 体	薬品・塗料	2mm以上付着しているもの
		切り傷	2mm以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	2mm以上の焼損・溶融しているもの
	縫製部	ねじれ・曲り	ベルトがねじれたままのもの、ねじれを解消してもベルトが曲がってよじれたままのもの
		磨耗	腰袋などに隠れるベルト部分が摩耗しているもの
		縫糸	1カ所以上切断しているもの
	バックル	変形	締まり具合が悪いもの
		摩滅・傷	リベットのカメラ部にガタ・変形があるもの
			深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの
		錆	リベットのカメラ部が2分の1以上摩滅しているもの
			ベルトの噛合部が摩滅しているもの（正しく装着し、力をかけるとベルトがゆるむもの）
胴ベルト	両耳	錆	全体に錆が発生しているもの
		ばね	折損、脱落しているもの
		変形	目視で確認できる変形のあるもの
	幅の中	摩滅・傷	深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの
		錆	全体に錆が発生しているもの
			割れ、亀裂のあるもの
	全 体	摩耗・擦り切れ	3mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの
		切り傷	3mm以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	3mm以上の焼損・溶融しているもの
		摩耗・擦り切れ	3mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの
	幅の中	切り傷	3mm以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	3mm以上の焼損・溶融しているもの
		薬品・塗料	3mm以上付着しているもの
	全 体	切り傷	3mm以上の切り傷のあるもの

点検項目		廃棄基準	判定
胴ベルト	ベルト	全 体	焼損・溶融 2mm以上の焼損・溶融しているもの
		縫製部	先端止めの変形 バックルに通らなくなったもの 先端止めの脱落 先端止めが脱落してベルトがまつれているもの 縫糸 1ヵ所以上切断しているもの
	バックル	変形	締まり具合が悪いもの リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの
		摩滅・傷	深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの リベットのカシメ部が2分の1以上摩滅しているもの ベルトの端合部が摩滅しているもの (正しく装着し、力をかけるとベルトがゆるむもの)
		錆	全体に錆が発生しているもの
		ばね	折損、脱落しているもの
		変形	外れ止め装置の開閉操作の悪いもの リベットのカシメ部にガタつきがあるもの
		摩滅・傷	深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの リベットのカシメ部が2分の1以上摩滅しているもの
		錆	全体に錆が発生しているもの
	フック	ばね	折損、脱落しているもの
		より戻し	より戻しの回転部に0.8mm以上の隙間があるもの
巻取器	変形	ストラップの巻込み、引出しができないもの	
		取付ねじ	巻取器の取付ねじが脱落しているもの
	破損・傷	巻取器が破損しているもの	
		ロック装置	巻取器のロック機能が動かなくなったもの
	樹脂カバー(ケース)	樹脂カバー(ケース)が破損しているもの	
		リベット	リベット頭部が1/2以上摩滅しているもの リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの
	錆	金属部に錆が発生しているもの	
		摩耗・擦り切れ	芯の露出、また1mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの 使用開始から2年が経過しているもの
	切り傷	芯の露出、また1mm以上の切り傷のあるもの	
		焼損・溶融	芯の露出、また1mm以上の焼損・溶融しているもの
ストラップ	平ロープ	薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの
		縫製部保護カバー	縫製部保護カバーが破損または脱落しているもの
	縫糸	縫糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの
		摩耗・毛羽立ち	全体的に摩耗・毛羽立ちがあるもの(素手で確認) 使用開始から2年が経過しているもの
	切り傷	1mm以上の切り傷のあるもの	
		焼損・溶融	1mm以上の焼損・溶融しているもの
	薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの	
		収縮性	泥・錆・塵などの汚れにより、柔軟性または収縮性が失われたもの
	縫製部保護カバー	縫製部保護カバーが破損または脱落しているもの	
		縫糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの
ショック	アブソーバ	薬品・塗料	薬品が付着したもの 薬品により変色・溶融箇所があるもの 塗料が著しく付着して、硬化したもの
		切り傷	カバーが破れてショックアブソーバが露出しているもの (テープなどを巻付けないでください)

点検項目		廃棄基準	判定
ランヤード	ショックアブソーバ	擦り切れ	両端の環部のベルトが著しく擦り切れているもの
		衝撃荷重	大きな衝撃荷重を受け作動したものの
	環類	変形	目視で確認できる変形のあるもの
		摩滅・傷	深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの
		錆	全体に錆が発生しているもの

1項目でも廃棄基準に達しているものは使用しないでください。

墜落制止用具の廃棄基準の一例

点検項目	廃棄基準		判定
	摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融	摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融	
ベルト 両耳	 2mm以上の摩耗・切り傷があるもの	 2mm以上の摩耗・切り傷があるもの	
環類	 目視で変形が確認できるもの	 1mm以上の摩滅・傷があるもの	
胴ベルトの 両耳	 3mm以上の摩耗・切り傷があるもの	 3mm以上の摩耗・切り傷があるもの	
バックル	 変形し、締まり具合の悪いもの	 1mm以上の摩滅・傷があるもの	
フック	 外れ止め装置の開閉操作の悪いもの フックが曲がったもの	 1mm以上の摩滅・傷があるもの	
巻取器	 変形 ストラップの巻込み、引出しができないもの	 破損・傷 本体が破損しているもの	
蛇腹	 1mm以上の摩耗・切り傷があるもの	 芯が見えているもの	
ストラップ・平ロープ	 薬品・塗料	 損傷・溶融	
蛇腹	 1mm以上の切り傷のあるもの	 縫糸が1ヵ所以上切断しているもの	
ショックアブソーバ	 破れ カバーが破れてショックアブソーバが露出しているもの		

8. 保管と手入れのしかた

●墜落制止用具は次のような場所で保管してください。

- ①直射日光に当たらない所。
- ②風通しがよく、湿気のない所。
- ③火気・放熱体などが近くにない所。
- ④腐食性物質を置いていない所。
- ⑤塵埃の少ない所。
- ⑥子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないような場所。